

DAWソフト

STEINBERG

Cubase 9.5

64ビット・エンジンで音質を向上させつつ
機能やプラグインもスラッシュアップ

《動作環境》

- * Mac: OS X 10.11/10.12, INTEL製の64ビット・マルチコア・プロセッサ(Core I5以上を推奨)
- * Windows: Windows 7/8.1/10 (すべて64ビット版のみ)、INTEL製の64ビット・マルチコア・プロセッサ(Core I5以上を推奨)/AMD製のマルチコア・プロセッサ
- * 共通: 8 GB以上のRAMを推奨 (最低4 GB)、18GB以上のディスク空き容量、解像度1,920×1,080のディスプレイを推奨 (最低1,366×768)、OS対応のオーディオ・デバイス (ASIO対応デバイス推奨)、インターネット環境 (インストール、ライセンス・アクティベーション、ユーザー登録などに必要)、VSTプラグインに対応

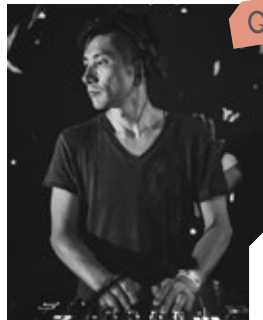
《製品概要》



▲ Cubase Pro 9.5 ▲ Cubase Artist 9.5 ▲ Cubase Elements 9.5

1989年にMIDIシーケンス・ソフトとして発売されて以来、オーディオ関連機能も充実させてきたMac/Windows用のDAW。2017年11月にリリースのバージョン9.5では64ビット浮動小数点ミキシング・エンジンを採用し、倍精度 (= 64ビット) でミックスできるようになりました。機能面も進化し、オートメーションのエディットやサンプトラックやサンプラーを備えたMIDIトラックのワークフローがスピーディに。また、複数のエフェクトを組み合わせた“プロダクションプリセット”などもミックスやマスタリングの効率をアップさせるツールです。以上のアップデートはCubase Pro 9.5 (オープン・プライス: 市場予想価格57,000円前後)、Cubase Artist 9.5 (オープン・プライス: 市場予想価格32,000円前後)、Cubase Elements 9.5 (オープン・プライス: 市場予想価格12,000円前後) に共通。いずれかのグレードのバージョン9を2017年10月18日以降にアクティベートした人は、無償でバージョン9.5に上げられます。

問 ヤマハ スタインバーグ・コンピューターミュージック・インフォメーションセンター
TEL ナビダイヤル: 0570-016-808 (IP電話の場合: 053-460-5270) URL <http://japan.steinberg.net>



Q'HEYが語る

Cubaseの ココがすごい!

Text by Q'HEY

国内最長寿テクノ・パーティー“REBOOT”を主宰するDJ、FUJI ROCK FESTIVALや“ULTRA JAPAN”などにも出演し、テクノ・シーンをリード、block.fm“radio REBOOT”のパーソナリティを務める。

打込みの方法が圧倒的に分かりやすい

数あるDAWの中で、Cubaseが長く支持され使い続けられている理由の一つは、MIDIでの打込みの方法が圧倒的に分かりやすく、自由度が高いという点でしょう。また、“イベント”と呼ばれるブロック状のMIDIもしくはオーディオのデータをプロジェクト画面上に張って楽曲を構築していくスタイルも、直感的で分かりやすいものです。付属のソフト・シンセの質が高く、即戦力となるものが多いのも魅力ですね。

一時期、オーディオ・ループ素材の扱いを得意とするDAWに若干押され気味なころもありましたが、エレクトロニック・ミュージックの世界でもメロディが重視されるようになって以降は、オリジナルのフレーズを作りやすいというCubaseのアドバンテージが再び注目されたように思います。その一方で、今回のバージョン9.5では、前バージョンから搭載された“サンプラートラック”(専用のサンプラーを標準搭載したMIDIトラック)が進化。例えば市販のオーディオ・サンプルのみならず、Cubase上のインストゥルメント・トラックで組んだMIDIデータをドラッグ&ドロップするだけで即座にオー

ディオ化し、エディットできるようになったのです。こうしてオーディオ系の機能も飛躍的に向上しました。またWindowsとMacの両方に対応していて、パソコンを替えたとしても全く同じ感覚で楽曲制作に向き合うことができるのも大きな強みと言えるでしょう。

新たなエンジンで音質向上

今バージョンでの大きな目玉の1つが、内部処理に64ビット(倍精度)浮動小数点ミキシング・エンジンを採用したことです。アプリケーション自体は以前から64ビット版でしたが、今バージョンからはCubaseの内部で行われるさまざまな処理が64ビット浮動小数点で演算されるため、エフェクト処理やミキシングの精度が高まり、最終的に音質の向上が期待できます。

そのほか、ポーカロイドを使いたいという人は別売のYAMAHA Vocaloid4 Editor For Cubaseを導入すれば、楽器系トラックとシームレスに扱うことが可能。これもポイントになっています。30年近い歴史を持ち、基本がしっかりとしていながらも進化を続けているCubaseは、一度手に入ると末永く付き合っていけるDAWとなるに違いありません。

Q'HEYの

お気に入り機能

1 コードパッド



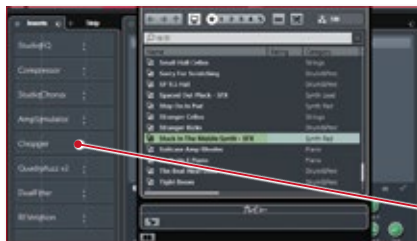
コード・ネームが書かれたパッドを押すだけで、そのコードを鳴らせるという機能です。これから打ち込みを始めようと思っている人が、必ずしもコードについて熟知しているというわけではありません。むしろよく分からないという人が多いかと思います。良いシンセの音が見つかって、フレーズも浮かんだけど、単音で鳴らしてはどれも薄い感じがすると思ったら、このコードパッドを試してください。これだ!という和音にめぐり会うことができるでしょう。

サンプラーを標準搭載したMIDIトラックです。インストゥルメント・トラックで作ったフレーズをサンプラートラックで扱いたい場合、これまで一度オーディオ化する手間がかかっていました。しかし今バージョンでは、インストゥルメント・トラック内のMIDIイベントをサンプラートラックにドラッグ&ドロップするだけでオーディオ化し、エディットできます。サンプラートラックのトラックプリセット(あらかじめエフェクトなどを設定したトラック用プレセット)から面白いものを見つけて、元から入っているサンプルを自分の好きなサンプルに入れ替えるのも面白いと思います。

2 サンプラートラック



3 FXチェーンのプロダクションプリセット



FXチェーン(複数のエフェクトの組み合わせ)をプリセットとして保存しておける機能で、渾身(こんしん)のエフェクト構成を丸ごと瞬時に立ち上げられます。バージョン9.5には豊富なプリセットが用意され、試聴しながら次々に切り替えることが可能。これまで自分の発想に無かった組み合わせや、こういう音はこうして作るんだ!という発見もあるでしょう。凝った効果が簡単に得られるので、ビギナーにはかなりうれしい機能だと思います。

Q'HEY オススメの

標準搭載プラグイン

シンセ Halion Sonic SE 3 Flux



何かと使えるマルチ音源のHalion Sonic SEに、ウェーブテーブル・シンセのFluxが追加されました。波形を組み合わせながらモジュレーションするウェーブテーブル・シンセにはやや難解なイメージもありますが、Fluxでは組み合わせる波形や動きをビジュアルで確認できるので、視覚的に理解しながらエレクトロニック・ミュージックに適した厚みのあるサウンドを楽しく作ることができます。内蔵のアルペジエーターも強力。

3基のオシレーターを搭載したバーチャル・アナログ・シンセで、野太い音が出せます。ビンテージ・アナログ・シンセ・スタイルの画面を備え、操作性が高く、気持ち良く音を作り込んでいけるのが特徴。700個のプリセットも魅力です。また、32ステップのアルペジエーターを内蔵。アルペジエーターのパネルをプロジェクト画面にドラッグ&ドロップすればフレーズをMIDIイベントに変換できるので、“全体的には良いフレーズなんだけどちょっと惜しい”と思う部分の修正ができたり、ほかのシンセで鳴らせたりするのも便利です。



シンセ Retrologue 2

テープ・シミュレーター Magneto



アナログ・テープヘアーオーバー・レベルで録音した際に、軽いひずみやコンプ的な効果がかかるのをサチュレーションと言いますが、これはそれをシミュレートしたプラグイン。テープ・マシン2台分の効果をシミュレートするDual Modeもあり、温かみのある心地良いひずみによってミックスをなじみの良いものにしてくれます。今バージョンでは操作画面が刷新され、より使い心地が向上しました。

DJミキサーのEQとよく似た3バンドのパラメトリックEQ。イントロやフィル、ブレイク、エンディングなどのキックを抜き差しする場面において、筆者が必ずと言っていいほど使っているプラグインです。キックの低域&高域を削る設定にしておき、普段はバイパスしつつも必要なタイミングでオンにします。Killスイッチを入れると完全に削れてしまうので、低域と高域のゲインを少しだけ下げたような設定で使用するのがオススメです。

EQ DJ-EQ



コンプ Multiband Compressor



ミックスの最終段階ではコンプが重要になってきますが、どんな仕上げにすればいいのかビギナーにはかなりハードルが高いところ。ここはプロでも試行錯誤する部分です。しかしMultiband Compressorを使えば各ジャンルのトータル・コンプに適したプリセットが手に入ります。また、エディットが必要な場合も直感的な操作が可能。各楽器パートに向けた設定もあるので、ぜひ使い込んでほしいプラグインです。